

紬織物技術支援センター拠点整備事業

きむら よし みち
木村 吉 導*

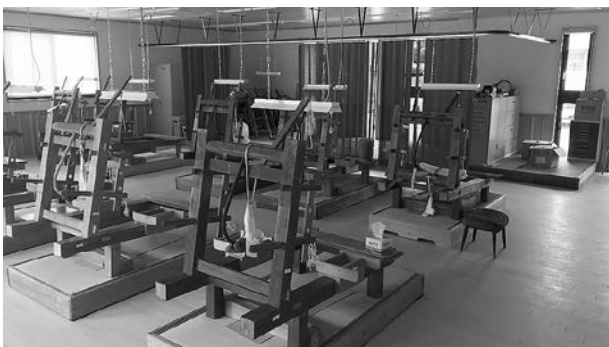
1. はじめに

紬織物技術支援センターは、ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形文化財である結城紬織物の産業振興・発展を支援する拠点として、後継者育成、技術相談、各種試験、新商品開発及び生産者への共同作業場の提供などを行う施設である。

主に伝習生・研究生への機織りや拵くりなどの技術指導、結城紬の原料となる手つむぎ糸の講習会開催など、後継者育成等を行っている。また、結城紬に使用する道具や、結城紬の歴史や製作工程を説明するパネル等を展示し、機織りの様子の見学や、糸つむぎ体験などを行うことができ、一般県民も結城紬について学ぶことができる（写真－1、2）。



写真－1 展示室



写真－2 機織室（機織機）

2. 整備概要

1) 事業概要

結城紬の一貫生産拠点としての機能強化と既存施設の老朽化のため、内閣府の地方創生拠点整備交付金を活用して建て替えを行った。建物は平屋建て延べ面積1,000㎡以下であるため、「とちぎ木材利用促進方針」（公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律第8条に基づく都道府県方針）に基づいて木造で計画し、内装の木質化を図った。

2) 建築概要

構造：木造 階数：平屋

敷地面積：2,301.57㎡

延べ面積：961.38㎡

建築面積：983.90㎡



写真－3 外観（大小の切妻屋根）

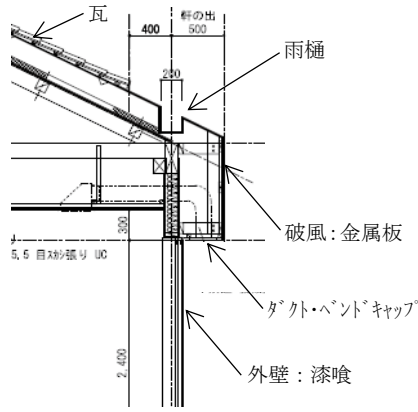
設計に際しては、伝統ある結城紬の技術を伝え、次世代へ受け継ぐ拠点となる建物にふさわしく、地区周辺の環境に調和したデザインをコンセプトとし、伝統技術・栃木県産材を積極的に採用し、建物ボリュームを分節させた大小の切妻屋根の外観により、田園風景に調和させるように配慮した（写真－3）。

外観は大小の切妻屋根が特徴であるが、谷樋となる雨仕舞いのために軒の出を500mm程度とした軒天を利用して設備ダクトのバンドキャップを設置することで、外壁面に設備が露出しない外観となるよう

* 栃木県 県土整備部 建築課 主査

に配慮した（図－1）。

内部は木質化を図り、腰壁の杉突板パネル、天井の桧羽目板、杉突板合板仕上げの木製建具などを採用した。



図－1 軒の出納まり

3) 構造概要

構造形式は在来軸組を基本とし、木材は一部の部材を除いて県内で多く生産されている一般流通材の杉とすることで、施工者が県産出材を調達しやすいように配慮した。スパンが6m以上となるエントランスとロビー・展示室は化粧垂木による架構、会議室はトラス架構とし、木造らしさを表現するため、天井材を張らずに架構の現しとした（写真－4、5）。



写真－4 エントランス（壁は大谷石張り）



写真－5 会議室（トラス架構）

4) 県産材の活用

材料選定においては、栃木県産材を積極的に採用し、主に表－1の材料を使用した（写真－6）。

杉板型枠コンクリート打放し仕上げとした外構門壁部分の益子焼の庁名陶板は、窯業技術支援センターで製作している（写真－7）。

表－1 県産材

県産材	使用箇所	産地	備考
漆喰	外壁	佐野	県内メーカーの製品
大谷石	外壁・内壁	宇都宮	エントランス、ロビー・展示室部分
芦野石	中庭敷石	那須	
益子焼	トイレ洗面器	益子	
益子焼	庁名陶板	益子	栃木県窯業技術支援センターで製作



写真－6 中庭（敷石は芦野石）



写真－7 庁名陶板（益子焼）

5) 伝統技術の活用

公共建築事業においても伝統的な建築技術を採用し、瓦や左官の職人が活躍でき、後継技術者の育成となるように屋根を腰葺き（日本瓦と金属板）、外壁を漆喰塗り（一部焼杉板張り）とした。

室名サインとトイレサインは、室名等を織り込んだ結城紬を釉織物技術支援センターで製作していただいた（写真－8）。

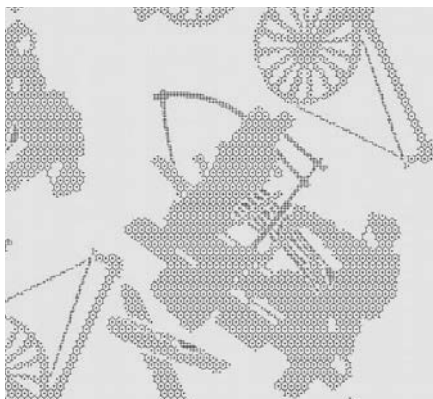
また、結城紬の柄模様（柄：かすりとは糸を先に染めてから織り込み、模様を描くもの）は亀甲であり、その模様が表現された特徴的な柄の図案をプリントしたシートをトイレブース扉に張るなど、結城紬を建築物の意匠に取り入れた（写真－9、図－2）。



写真－8 サイン（結城紬）



写真－9 トイレ（洗面器は益子焼）



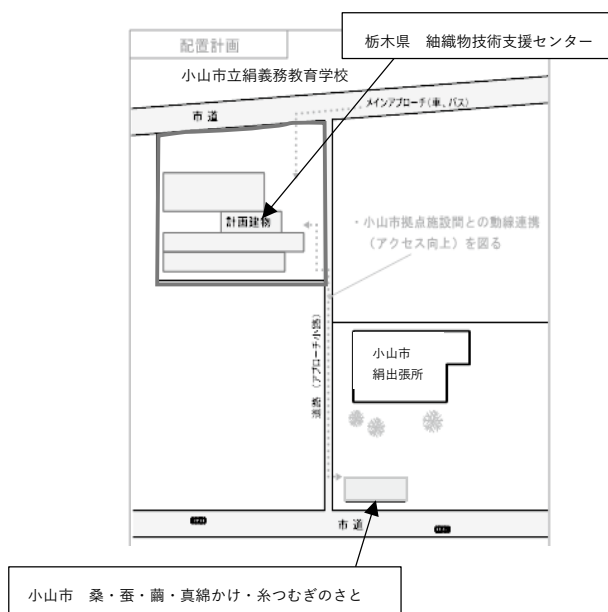
図－2 図案（織姫）

3. 事業の成果

本施設周辺には、義務教育学校や市の出張所など地区の拠点となる施設が立地しており、隣接地に小山市が、手つむぎ糸などの原料作りを支える後継者育成の拠点となる「桑・蚕・繭・真綿かけ・糸つむぎのさと」を令和元年に整備し、県が紬織物技術支

援センターを令和2年に整備したことで、結城紬の生産地域の活性化に寄与する拠点を整備することができた（図－3、写真－10）。

新施設では令和2年4月に業務を開始し、各種研修等の実施や見学者の受け入れを行っている。今後ますます伝統工芸である結城紬の産業振興・発展を支援する拠点として活用され、結城紬の技術を次世代へ継承していくことが期待されている。



図－3 配置計画



写真－10 鳥瞰

4. おわりに

本事業は設計・工事関係者、庁内関係課等多くの方の御尽力により、令和2年度の全建賞を受賞することができた。建築技術職として、この施設にふさわしいデザインについて考えながら整備に携われたことは冥利につきる。

【著者紹介】 木村 吉導（きむら よしみち）

平成22年栃木県入庁（建築職）。県土整備部建築課、都市計画課、宇都宮土木事務所建築指導担当を経て現職。